

22-09-28

## 「地域価値の向上」に向けて、認知症への取り組みを推進します ～名鉄病院・名古屋市と連携し鉄道係員を中心に認知症サポーターを養成～

名古屋鉄道は、このたび名鉄グループのサステナビリティを巡る重要課題(マテリアリティ)における「地域価値の向上」に向けて、進行する高齢社会を背景に社会課題となっている「認知症」への取り組みを推進します。

詳細は下記の通りです。

### 記

#### 1. 取り組み内容

##### (1) 認知症サポーターの養成

当社従業員が認知症を少しでも理解し、鉄道をご利用する認知症の方やその家族をあたたかく見守り、必要な手助けができるよう「認知症サポーター」を継続的に養成し、当社主要各駅に配置します。

##### (2) 駅における啓発パンフレットの配布

地域における認知症への理解を深めるために、当社各駅において、啓発パンフレットの配布を行います。

##### (3) 「あいち認知症パートナー宣言」の策定および「あいち認知症パートナー企業」への登録

当社の認知症に対する姿勢を社内外に示すべく「あいち認知症パートナー宣言」を策定し、「あいち認知症パートナー企業」への登録を2022年8月18日に行っております。

※あいち認知症パートナー企業とは、愛知県とともに、「認知症に理解の深いまちづくり」の実現に「じぶんごと」として取り組み、その取組内容を宣言し広く公表する企業です。



#### 2. 当社従業員向け認知症サポーター養成講座の開講について

認知症サポーターの養成にあたっては、名古屋市の総合病院として唯一「認知症疾患医療センター」を設置する名鉄病院、名古屋市認知症相談支援センターおよび名古屋市各区のいきいき支援センターと連携し、当社従業員向けに「認知症サポーター養成講座」を年間8回程度実施します。同講座は、日常生活や駅での対応など実際の業務を想定した講義とワークショップから構成され、継続的に実施することで、約1,400名の駅係員および約600名の車掌全員を認知症サポーターに養成する計画です。

以上